

▼六月七日正午から、日比谷松本楼で「第五福竜丸展示館六周年記念集会」。飯倉武司南部公園緑地事務所長、故広田専務理事のご子息、広田英靖氏、初参加の江東の詩人永井和子さんはじめ四〇名が参加され、約二時間の歓談。終了後、引き続き評議委員会。今後の運営方針について討議。

夢の島日記

▼六月十九日、故広田専務理事の奥様、ヨシさんが「平和の園」に植樹をと、ご子息と連れだって来館。本職の植木屋さんによって、久保山さんの碑をはさんで、ザクロとカルミヤの木を植樹。また、香典の一部一〇〇万円を資料室開設募金にと寄付して下さる。「お父さんの遺志」と。募金額は六月末現在、三、七〇一、八四五円。

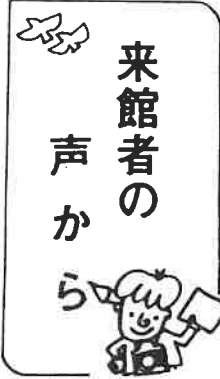
▼ニューヨークの反核行動に呼応して六月十二日、展示館前の広場で、宗教NGO、第五福竜丸平和協会他諸団体の共催による「いのちをえらびとる沈黙のとき」という趣のかわった集会を開催。真夏を思わせる炎天下での、十分間の「沈黙のとき」約五十名の参加。

▼六月は十一月とともに毎年展示替の月。今回は、アメリカ、フランスの原水爆実験の実体を中心とした写真パネルなどを新たに展示。年々増える来館者にこたえるため、序々に充実した展示内容としていきたい。

▼六月十九日、故広田専務理事の奥様、ヨシさんが「平和の園」に植樹をと、ご子息と連れだって来館。本職の植木屋さんによって、久保山さんの碑をはさんで、ザクロとカルミヤの木を植樹。また、香典の一部一〇〇万円を資料室開設募金にと寄付して下さる。「お父さんの遺志」と。募金額は六月末現在、三、七〇一、八四五円。

▼六月十九日、故広田専務理事の奥様、ヨシさんが「平和の園」に植樹をと、ご子息と連れだって来館。本職の植木屋さんによって、久保山さんの碑をはさんで、ザクロとカルミヤの木を植樹。また、香典の一部一〇〇万円を資料室開設募金にと寄付して下さる。「お父さんの遺志」と。募金額は六月末現在、三、七〇一、八四五円。

▼六月十九日、故広田専務理事の奥様、ヨシさんが「平和の園」に植樹をと、ご子息と連れだって来館。本職の植木屋さんによって、久保山さんの碑をはさんで、ザクロとカルミヤの木を植樹。また、香典の一部一〇〇万円を資料室開設募金にと寄付して下さる。「お父さんの遺志」と。募金額は六月末現在、三、七〇一、八四五円。



来館者の声から

福竜丸の帰港した焼津は私の故郷なのです。このこと(一九五四・三・一四)を知らなかったという無知は私にとって恥じるべきことです。真実を知るため知らせるためにもこの展示館の存在は、不可欠なものです。展示館の建設にたずさわったすべての人に感謝の気持ちを書きたい。ありがとう。

この前学校のスライドで「第五福竜丸」をみた。おそろしいと思った。 赤地広光

今までは長崎だけが被爆した地域だと思っていました。日本以外に被爆した地域があるのを知り驚きました。今、日本でも原爆反対の運動がさかんにおこなわれていますが、ビキニ島のこともっと広めるべきだと思います。

今日は学校を休んで来ました。べつに来る気はなかったのですがまた来たところ、こんなにも資料がそろっててやばり歴史的にも世界の目を集めたこの船を見て感動したし、自分もこの職員になりたいと思いました。

100万人参観者運動を!

'82年6月来館者数	4,882名
通算1カ月平均来館者数	4,167名
当月1日平均来館者数	188名
通算来館者数	295,853名

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話(521)8494

涙と汗の平和行進

国連軍縮特別総会に参加して

第五福竜丸平和協会理事 本多喜美

ニューヨークは本当によく歩かせる町だ。それが私の初訪問の印象だ。
東京を六月四日に出発し二〇時間の強行でニューヨークに四日夜に着き足のむくみがとけぬうちに歩き廻って足の裏が固くなり、六月十二日の国際的平和行進も目的地セントラルパークまで歩き続けられた。
平和行進は七日にもあった。これはブライトン公園からハマーシールド広場まで宗教者の行進の後について人道を歩いた。
広島の原爆被災のあの脱毛の少女の写真を抱えて歩いているうちに雨が降ってきていつのまにか私の目から涙が流れ、本当にどうして泣けるのかとびっくりました。だから十二日は泣かないと思ったのに国連の前で原爆の歌をうたい、ノーマアヒロシ

マ・ナガサキ・ヒバクシャと叫び折したら四十二丁目通りの坂下から坂上までもういっばいの行進が見通されて何とそれは表現してよいか道幅いっばいの壮大な人の群れに涙があふれできた。
全く私はこんなにも涙もろいとは米国へ来て初めて発見した。何故平和行進の度に涙が流れたのかロスアンゼルスでもホテルでも考えたが考えるたびにまた涙が出る。帰国し、今も思いつく涙がほしくなる。
広田専務理事の追悼をこめて私は夢の島から平和行進を送り出すとき涙を汗にかえて平和のために働こうといったがあの十二日は涙も汗も流してセントラル公園まで辿りついたのである。途中二度、フィルムに入れ換えで人道に出たがパンフレット

をもらったりしゃべったり、第五福竜丸展示館のパンフレットを配ったり、アメリカ人の行進、カナダ人の行進、アジア・アメリカグループの行進をみたり写真を撮ったりした。
公園内会場は満員でステージははるかにかすみとでも独りでは帰途が思いやられ、お先に失礼してまた歩きはじめ、自然科学博物館で休憩しランチをとったらもう午後五時だったが一時間館内を駆けめぐって見学。テキサスから掘り出したマンモスの頭部をみてきた。
また歩いて六十七丁目からタクシーに乗ってホテルに辿りついたが私がしんがりではなかった。
この他、要請行動としてスウェーデン大使を訪問。代表団長から署名用紙記載の項目を説明し、その後二分間時間をもらえたので私は太平洋核実験や広島・長崎の外国人被爆者等隠されている被爆者の調査を国連とNGOが協力して実行してもらいたいと訴えた。(二めん下段へ)

人間がどのように思っているのかとも知りたい。

理解されるよりは理解すること。なぐさめられるよりはなぐさめることを。愛されるよりは愛することを。世界全人類が求めていくことができますよ。

この船にのりたい。この船で大へいようをおうだんしたようにみえないけど一度のってみたい。

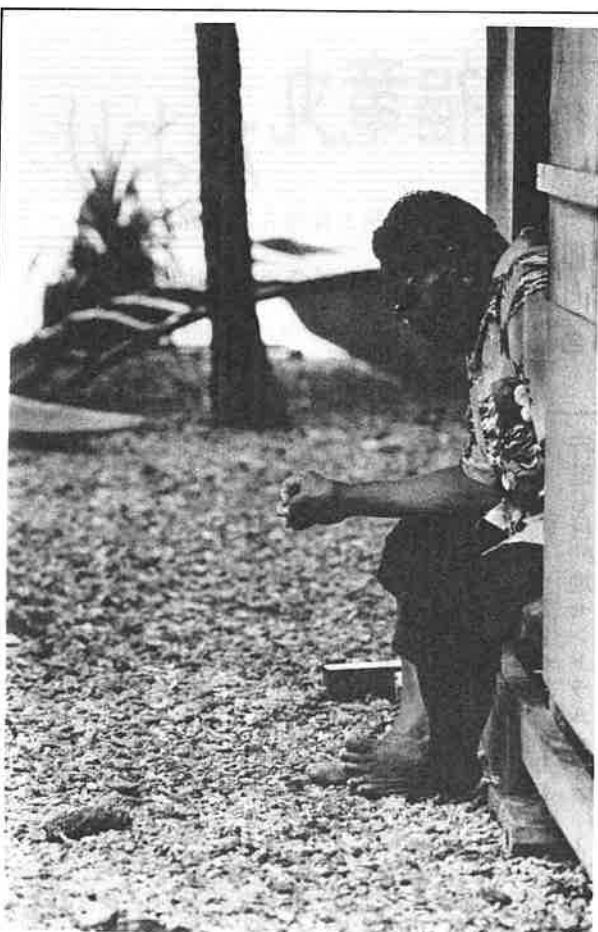
●核世界の先端 マーシャル諸島

<5>
文・写真
島田興生

一九七八年八月三十一日、ビキニに帰島していた住民百余人は、マーシャル諸島政府の派遣した三隻の貨物船に便乗して島を離れた。この年の四月に行なわれた米国エネルギー研究開発庁の検診の結果、住民の体内からアメリカの環境基準を上回る放射能が検出され、これに驚いた米政府は帰島住民を

他島に移転させることに決められた。決定からわずか四カ月、軍隊を同行しなかったが文字通りの強制移転であった。説得にきた信託統治政府の役人に対し、住民のリーダーのジャケオ老は「私の体には少しも異常はない。どうしても言うなら子どもたちや女は連れていけ。私は島

に残る」と言い張ったが、最後の一人になった老人は黙って手製のカヌーにのって浜を離れた、という。この一年後の七九年六月、マジユロ環礁のアジット島でジャケオ老と会った。アジット島は端から端まで三、四分もあれば歩けるような小さな島で、ビキニを離れた百人は十戸のベニヤの仮住いに別れて住んでいた。食料援助だけは続けられていたが、米政府の当時の約束はほとんど忘れ去られていた。



「楽しみは何もない。ラジオを聞くだけ」と仮住いの島でもの想いにしむジャケオさん(71才)
(マジユロ・アジット島、1979年6月)

「ここに来た時は、何んでもいいようにしてあげる」と米政府の役人は言ったが、食料の配給もだんだん少くなる。新しい移住地を探しにハワイまで行ったが、やはり私の住みたいのはビ

平和行進に参加した日本代表たちのこれからの見通しは楽観的、悲観的さまざまではあるうが私たちは平和を守って核兵器廃絶を目指し前進するしかないと思う。アメリカの若者はいう。「レーガンよ。私たちにあなたの年まで生きるチャンスを与えよ」

五〇万 一望の後に五〇万
ニューヨーク 平和爆発
百万人

古稀が 歩いて歩いて原水禁
亡き人も皆一緒に百万人
人に酔い泣き泣き上戸の
マンハッタン
(一九八二・六・二七記)

本多さんは、第五福竜丸平和協会の代表として、第二回国連軍縮特別総会に核兵器完全禁止を要請する国民代表団に参加されました。キニだけだ。放射能にかかってもかまわないからビキニに帰りたい」

ビキニ事件当時の貴重な署名簿を求めて

杉並区・菅原さん宅への訪問記

毎年二回の展示替、前々からほしいと思っていたビキニ事件当時の国民大運動となった原水爆反対の署名用紙。

今年も国連へ届けるため署名運動が全国で推し進められたが二八年前に三千二百万集められた署名運動はどんなに大変だっただろうか。

そんなある日、スクラップされた新聞に署名簿を保存されているご夫婦が紹介されている記事を知り尋ねることになったのは六月二十九日でした。

保存していたのは当時杉並区で魚屋「魚健」を営業していた菅原健一さん(七七)、トミ子さん(七五)夫妻。

新宿からバスで十五分、神田川を通過して立正佼正会博堂前終点で降り、徒歩三分。坂をのぼり和田中学校前のはし向いに菅原家はあった。もう魚の匂いもしなくなってお店である。

訪問の主旨に同意してくれた健一さんはさっそく茶箱みたいな大きな箱からいろんな書類のはいた紙袋を取り出し、その中の一つを開いてみせた。確かにその当時の署名簿であった。健一さんはその署名簿を手にしながら「ビキニ水爆で第五福

竜丸が被災したニュースを知ったのは三月十七日、午後三時二〇分のラジオ放送でした」と当時を思い出しながらかりとした口調で話してくれました。

その日の夕方、注文をとっていた魚が次々と断られ、近所の奥さんまでもが店先をまるでバイキンでもいるようによけていく有り様をみて、事の重大さを目のあたりにしました。

これは死活問題だと、浅草、下谷、向島の魚商組合と協議し、四月二日(日)の業者だけの大会が築地で開催され、そこで生れたのが「築地中央市場買出人水爆対策委員会」の署名簿である。

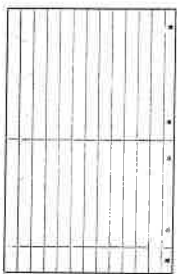
この署名簿は十枚一組で各魚屋の店先に置かれ、またたく間に集められました。又、トミ子さんは杉並の公民館で毎回開かれる婦人の学習会に参加しておりその集まりに署

名簿を持参。その公民館の館長でもあり講師でもあった安井郁さんはトミ子さんの訴えに同意「ビキニ水爆実験は魚屋さんだけの問題ではない。農村も漁村も町もそこで生きて生活している人、全人類の問題である」と呼びかけられ、これも「またたくまに参加者全員の署名簿が集められた」とトミ子さん。

そのことよって安井郁さんを中心とした「水爆禁止署名運動杉並協議会」の設立、原水禁運動の草分けとなったのである。そこで作成された「水爆禁止のための署名簿」は杉並だけで二八万人分、当時の同区の人口が三九万人であったからたいへんな数字である。しかもその内の二二万人は婦人の力で集めたものである。

改めてその当時の運動の大きさを知ると共に、お二人のご活躍に心から感謝と拍手をおおくりしたい。

「この署名簿が展示館でいかにせぬならぜひに」といただいた署名簿はいま展示館にある。



第五福竜丸水爆被害者救済委員会
「第五福竜丸水爆被害者救済委員会」の署名簿を展示する様子。署名簿は、当時の国民大運動の貴重な記録として、現在も大切に保存されている。